

多賀城市子どもの生活に関する実態調査
報告書(概要版)

平成31年3月
多賀城市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	3
2.	調査対象及び回収状況	3
3.	調査方法及び調査期間	4
4.	調査内容	4
5.	分析の方法	5
6.	報告書の見方	6
7.	参考	6
II	調査結果の概要と考察	7
1.	回答者の属性	9
2.	生活の状況	10
3.	保護者の状況	13
4.	子どもの状況	17
5.	要望する支援	21
III	自由意見	23
1.	保護者の自由意見	24
2.	子どもの自由意見	26

I . 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

国民生活基礎調査によると、2012年（平成24年）の子どもの貧困率は16.3%でしたが、2015年（平成27年）の子どもの貧困率は13.9%と、2.4ポイント下がったものの、子どもの貧困に係る問題については、全国的に取り上げられている重要課題となっています。そのような状況下で、本市の子どもや家庭の生活の実態把握と支援ニーズの調査・分析を行うことで、子どもの健全な成長を促し、子どもの可能性を大きく広げるための施策につなげることを目的として、子どもの生活に関する実態調査を実施しました。

2. 調査対象及び回収状況

アンケートの調査対象及び回収状況は、以下のとおりです。

区分	対象者	調査票 送付人数	回収数 (人)	回収率	配布・ 回収方法	備考
保護者	就学前児童保護者	1,447	717	49.6%	郵送	対象の50%
	小学1年生から4年生の保護者	719	646	89.8%	学校を通じて	各小学校各学年1クラス
	小学5年生保護者	394	331	84.0%	学校を通じて	各小学校2クラス
	中学2年生保護者	288	253	87.8%	学校を通じて	各中学校2クラス
	16歳～17歳の子どもの保護者	636	265	41.7%	郵送	対象全員
小計		3,484	2,212			
子ども	小学5年生児童	394	328	83.2%	学校を通じて	各小学校2クラス
	中学2年生生徒	288	252	87.5%	学校を通じて	各中学校2クラス
	16歳～17歳の子ども	636	254	39.9%	郵送	対象全員
小計		1,318	834			
合計		4,802	3,046	63.4%		

※本報告書において「回収数」とは、有効回収数を指し、回収されたが全くの白紙回答であったものを除き、集計を行った件数をいいます。

3. 調査方法及び調査期間

アンケートの調査方法及び調査期間は、以下のとおりです。

調査対象		調査方法	調査期間
就学前児童	保護者	郵送による配布・回収	平成31年1月10日～平成31年1月29日
小学1～4年生	保護者	学校を通じた配布・回収	平成31年1月11日～平成31年1月29日
小学5年生	保護者		
	児童		
中学2年生	保護者		
	生徒		
16～17歳の子ども	保護者	郵送による配布・回収	平成31年1月10日～平成31年1月29日
	子ども		

4. 調査内容

アンケートの調査内容は、以下のとおりです。

保護者向け	子ども向け
1. 回答者について	1. 回答者について
2. 世帯の状況について	2. 学校のことについて
3. 就労状況、経済状況について	3. 普段の生活について
4. 子どもの進学について	4. 悩みや相談相手について
5. 子どもの普段の生活について	5. アンケートの感想、大人に言いたいこと等について
6. 子どもとの関わりや悩み等について	
7. 制度やサービスの利用について	
8. アンケートの感想、市への要望等について	

5. 分析の方法

本調査においては、貧困の状況にあると考えられる方を把握するにあたり、本市の「貧困線」を設定した上で、『貧困線未満』と『貧困線以上』の世帯の違いについて比較分析を行いました。

本調査では、世帯人数と可処分所得の回答結果のみで『貧困線未満』と『貧困線以上』を区分しており、『貧困線未満』にあてはまる世帯を貧困の状態にあると想定していますが、『貧困線未満』にあてはまる世帯すべてが、実際の生活に困難を抱えていると断定するものではありません。

なお、この調査結果は今回の調査方法による限られた回答から算出したものであり、本市すべての状況ではないことに注意が必要です。

※貧困線…生活に必要なものを購入できる最低限の収入を表す指標

(それ以下の収入では、一家の生活を支えることが困難であると考えられています。)

貧困線未満の世帯で生活する子どもの割合を「子どもの貧困率」と言いますが、個別訪問で実施している国民生活基礎調査を基にした国の「子どもの貧困率」とは算出方法が異なります。

【世帯人数ごと可処分所得による貧困区分】

世帯人数	貧困線未満	貧困線以上	(参考) 国における 貧困線の基準
2人世帯	175万円未満	175万円以上	173万円
3人世帯	210万円未満	210万円以上	211万円
4人世帯	245万円未満	245万円以上	244万円
5人世帯	275万円未満	275万円以上	273万円
6人世帯	300万円未満	300万円以上	299万円
7人世帯	325万円未満	325万円以上	323万円
8人世帯	345万円未満	345万円以上	345万円
9人以上世帯	365万円未満	365万円以上	366万円

- 留意点：保護者アンケートの回収数2,212世帯のうち、世帯人数と可処分所得の不明・無回答が363世帯あったことから、貧困区分が明確となった件数は1,849世帯でした。これらの分析の結果、本調査において保護者の『貧困線未満』は92世帯でした。

貧困線未満の世帯の割合は、5.0%

本市の貧困線未満の世帯の割合は、等価可処分所得が貧困線未満の世帯の割合のことをいいます。

計算式：調査全数2,212世帯－無回答363世帯（世帯人数・可処分所得のいずれかが未記入）

＝1,849世帯

92世帯（貧困線未満の世帯数）/1,849世帯（上記を母数）＝4.98%≒5.0%

※等価可処分所得とは、世帯の手取り収入を世帯人員数で調整した所得（預金や現物給付は含みません。)

貧困線未満の世帯で生活する子どもの割合（子どもの貧困率）は、5.0%

本市の貧困線未満の世帯で生活する子どもの割合(子どもの貧困率)は、貧困線未満の世帯を抽出後、その世帯に属する子どもの人数を算出し、全体の子どもの人数で除した割合のことをいいます。

※全体の子どもの人数 = 保護者アンケートで回答された子どもの人数を合計したもの。世帯人数・可処分所得のいずれかが未記入の場合は集計に含めません。

計算式：調査全数 4,581 人－無回答 731 人（世帯人数・可処分所得のいずれかが未記入）
=3,850 人（全体の子どもの人数：貧困線未満、貧困線以上の世帯かの区分が明確な人数）
194 人（貧困線未満の世帯に属する子どもの人数） / 3,850 人（上記を母数）
=5.03%≒5.0%

6. 報告書の見方

- ① 調査数「n（n = Number of cases）」は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示しています。
- ② 回答の構成率は百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合があります。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、すべての選択肢の比率を合計すると 100.0%を超える場合があります。
- ③ 図表および本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合があります。
- ④ 調査数「n」が小数の場合は、統計上、回答構成比の信頼数が低いため、文章中の分析では参考として掲載している、もしくは言及していない場合があります。

7. 参考

『貧困線未満』と『貧困線以上』の世帯の違いについて比較分析を行うにあたり、次の質問をしました。

問 17 あなたの世帯全体の、平成 30 年における年間の手取り収入（可処分所得）について教えてください。（回答欄におおよその金額を記入）

*世帯全体の1年間（平成30年1月1日～12月31日）の収入は、給与や事業の売上、年金や各種の給付・手当などの収入の総計から、所得税や住民税等の税金、健康保険料や年金保険料等の社会保険料などを除いた、手取り収入（可処分所得）になります。
*（2）（3）に該当する収入が無い場合は、（2）（3）の回答欄は空欄でも構いません。

	年間金額
(1) 主たる生計維持者の年収	万円
(2) その他の収入を得ている18歳以上の家族の年収合計	万円
(3) その他の収入（各種給付・手当、実家からの仕送り、年金など）の合計	万円
世帯収入の合計（（1）+（2）+（3））	万円

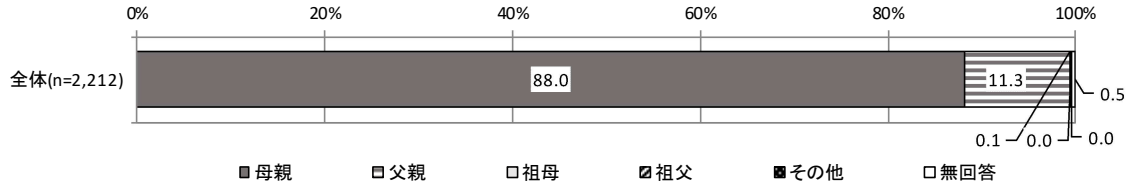
Ⅱ．調査結果の概要と考察

Ⅱ 調査結果の概要と考察

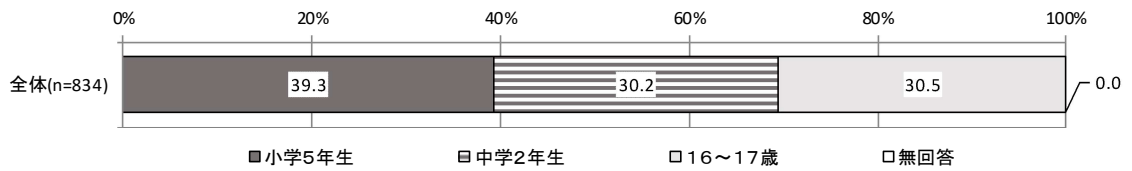
1. 回答者の属性

①回答者

【保護者】

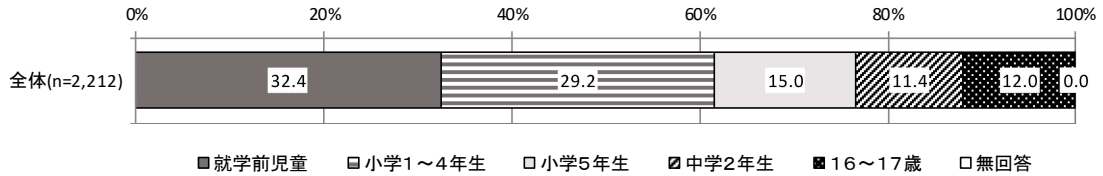


【子ども】

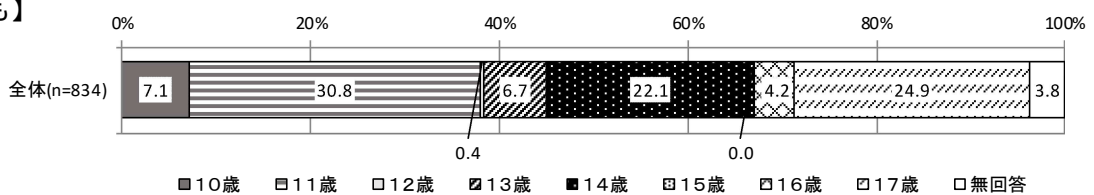


②子どもの学年・年齢・人数

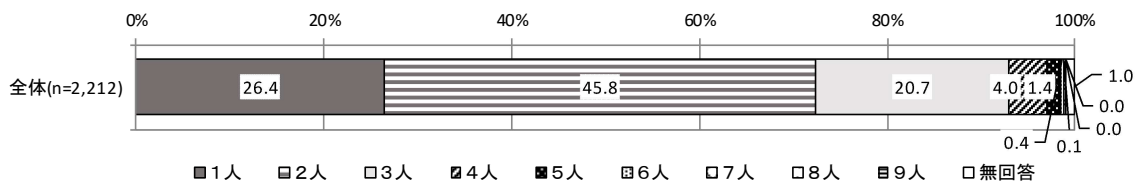
【保護者】



【子ども】



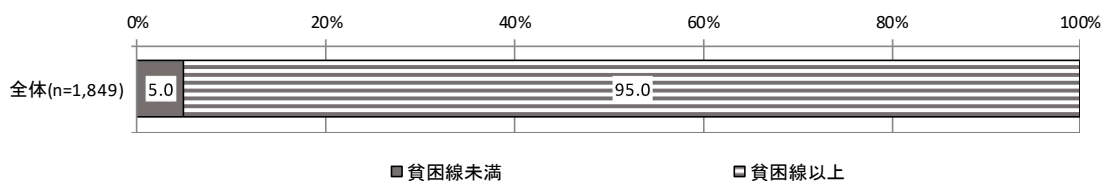
【子どもの人数】



2. 生活の状況

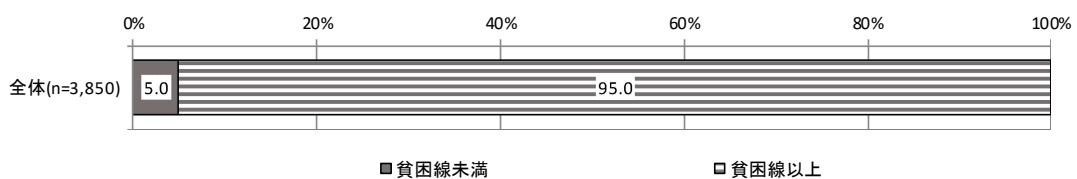
- 『貧困線未満』に該当する世帯は5.0%。貧困線未満の世帯で生活する子どもの割合は5.0%。
- 『貧困線未満』で、《貧困もしくは貧困に近い状況にある》と感じているのは3割以上。
- 住居の状況は、『貧困線未満』では《持家以外》が5割以上。
- 子どもを医療機関で受診させなかったことは、『貧困線未満』では「ある」が2割。
- 経済的理由で進学を諦める、学校を中退またはその可能性について、『貧困線未満』では「これまでにはなかったが、今後、その可能性があると思う」が5割以上。
- 『貧困線未満』では、経済的理由から食費や衣料品、散髪代、娯楽費などの支出を控えたり、各種支払いが滞ったりした割合が『貧困線以上』に比べて高い。

① 貧困線未満の世帯の割合 ※無回答を除く



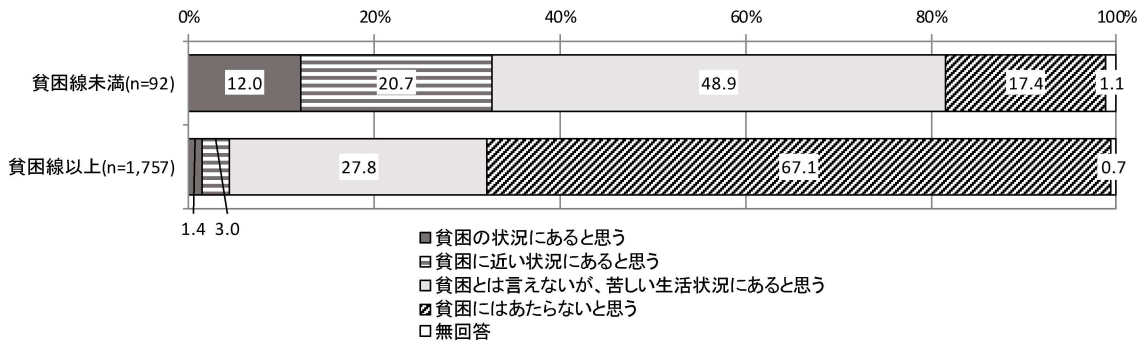
世帯人数と1年間の可処分所得から、上述した区分表の『貧困線未満』に該当する世帯は5.0%、『貧困線以上』に該当する世帯は95.0%となっています。

② 貧困線未満の世帯で生活する子どもの割合（子どもの貧困率） ※無回答を除く



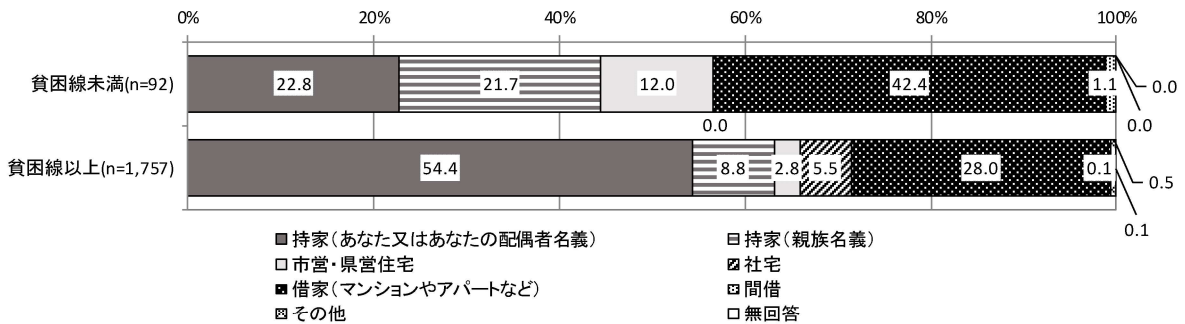
前述の『貧困線未満』の世帯に属する子どもの割合は5.0%（194人）となっています。『貧困線以上』に属する子どもの割合は95.0%（3,656人）となっています。

③ 貧困の状況にあるか



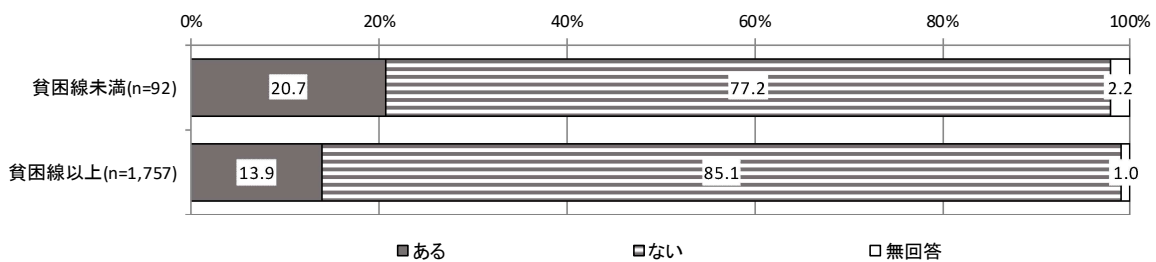
『貧困線未満』では「貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う」が48.9%と最も多く、「貧困の状況にあると思う」は12.0%、「貧困に近い状況にあると思う」は20.7%となっています。

④ 住居の状況



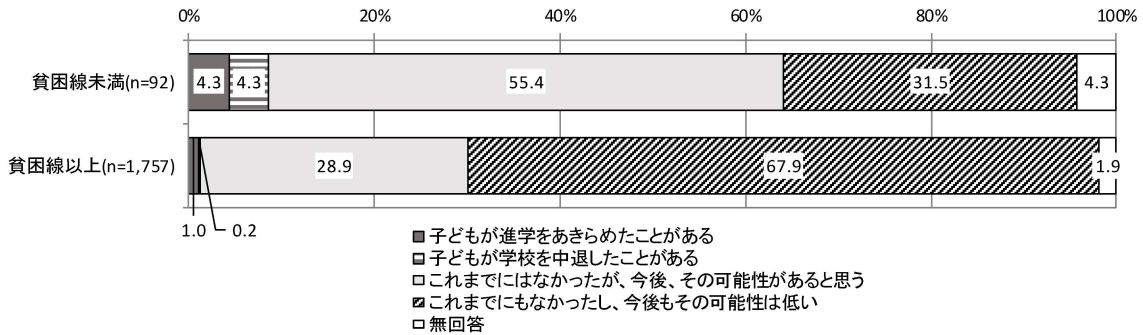
『貧困線未満』では『貧困線以上』に比べ、「借家(マンションやアパートなど)」が14.4ポイント多い42.4%と最も多くなっています。《持家》については『貧困線以上』では63.2%であるのに対し、『貧困線未満』では44.5%と、半数以上が《持家以外》になっています。

⑤ 医療機関で受診させなかったことの有無



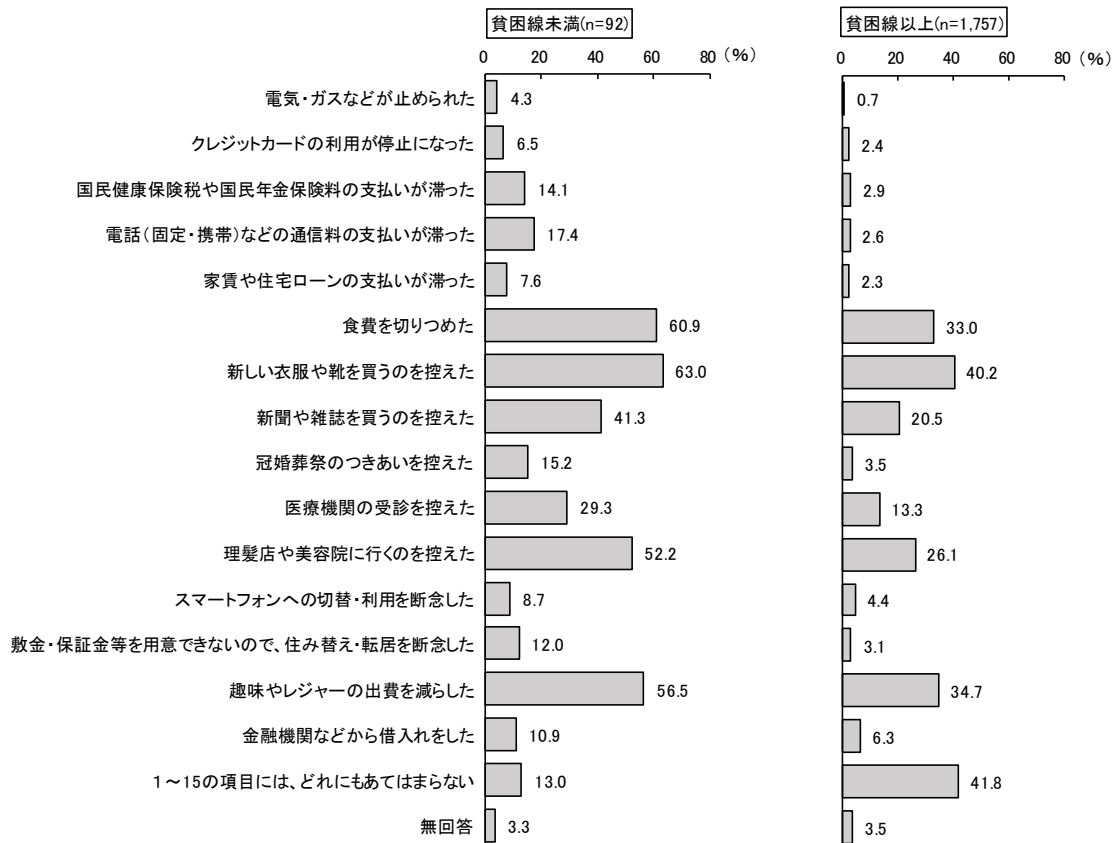
『貧困線未満』では『貧困線以上』に比べ、「ある」が6.8ポイント多い20.7%となっています。

⑥経済的理由で進学を諦める、学校を中退またはその可能性



『貧困線未満』では『貧困線以上』に比べ、「これまでにはなかったが、今後、その可能性があると思う」が26.5ポイント多い55.4%と最も多くなっています。また実際に、子どもが進学をあきらめたことや学校を中退したことがある割合は8.6%となっています。

⑦過去半年間に経済的な理由でした経験

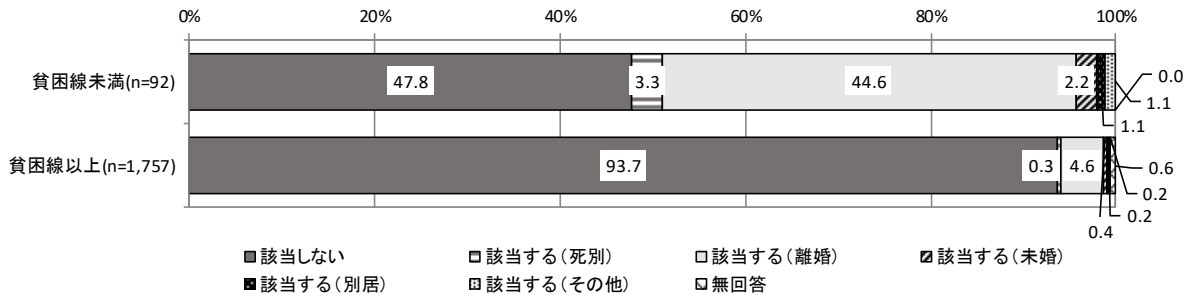


『貧困線未満』では経済的理由で支払いが滞ったり、出費を切りつめた割合が高く、特に、「食費を切りつめた」と「新しい衣服や靴を買うのを控えた」は6割以上、「理髪店や美容院に行くのを控えた」と「趣味やレジャーの出費を減らした」は5割以上となっています。

3. 保護者の状況

- ひとり親世帯は『貧困線以上』では5.7%だが、『貧困線未満』では52.2%と高い。
- 保護者の就労状況は、『貧困線未満』では「正社員・正規職員」の割合が低く、『貧困線以上』の約半数にとどまる。
- 保護者の最終学歴について、『貧困線未満』の父親では「高等学校卒業」と「大学卒業」の割合が、母親では「大学卒業」の割合が『貧困線以上』と比べ、いずれも低い。
- 『貧困線未満』では、自分が育った家庭で何らかの困難を経験した割合が高い傾向にある。
- 悩んでいることは、『貧困線未満』では「子どもの教育費のことが心配である」と「子どもに対するしつけや教育に自信がもてない」がともに4割以上。
- 友人・知人について、『貧困線未満』と『貧困線以上』では傾向にそれほど差はない。
- 『貧困線未満』では、近所づきあいの程度は、『貧困線以上』に比べ少ない傾向にある。

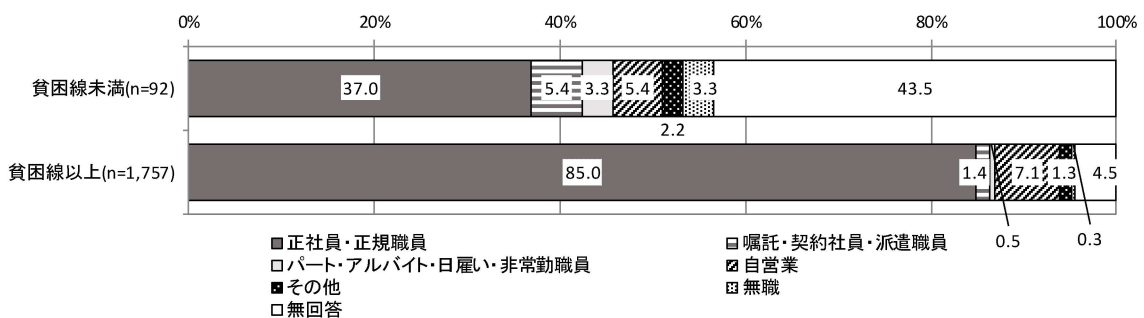
①「ひとり親世帯」の該当



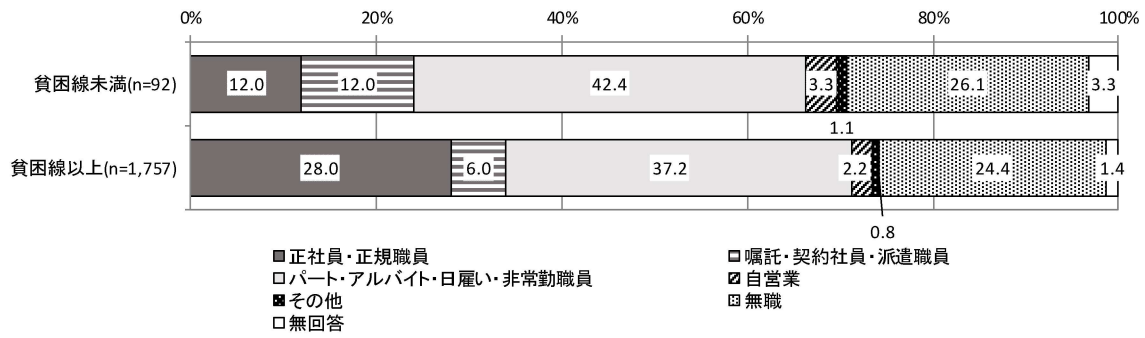
『貧困線以上』では「該当する」が5.7%であるのに対し、『貧困線未満』では52.2%と、高くなっています。

②保護者の就労状況

【父親の職業形態】



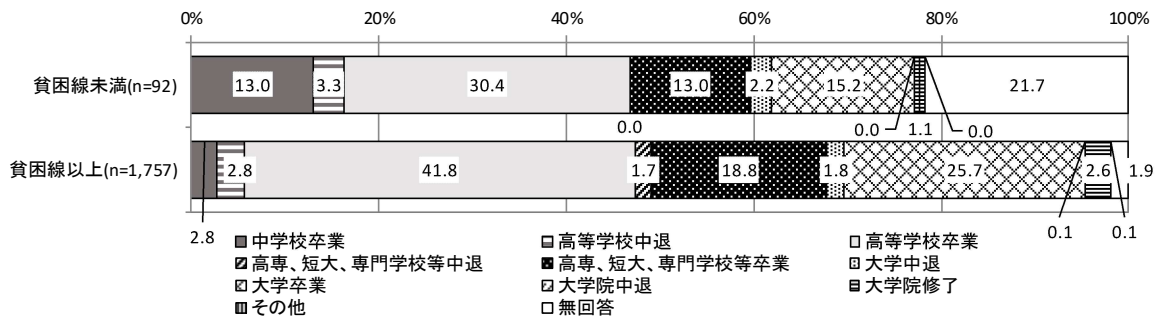
【母親の職業形態】



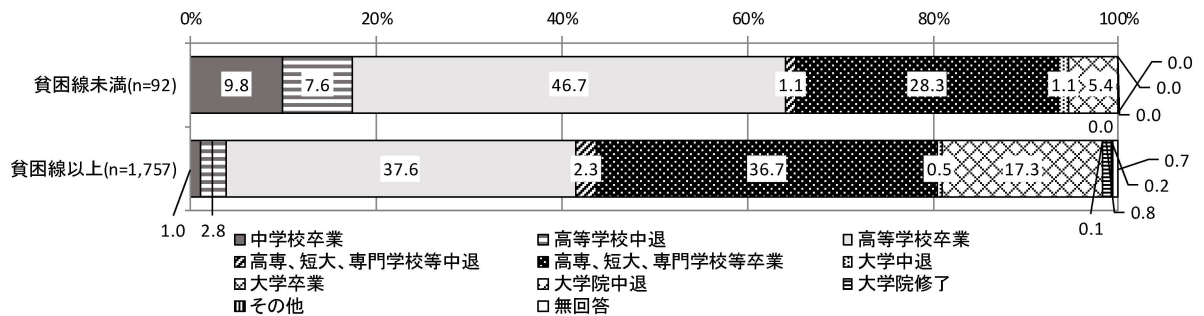
『貧困線以上』に比べ、『貧困線未満』では「正社員・正規職員」の割合が父親では 48.0 ポイント、母親では 16.0 ポイント低くなっています。

③保護者の最終学歴

【父親の最終学歴／貧困線別】



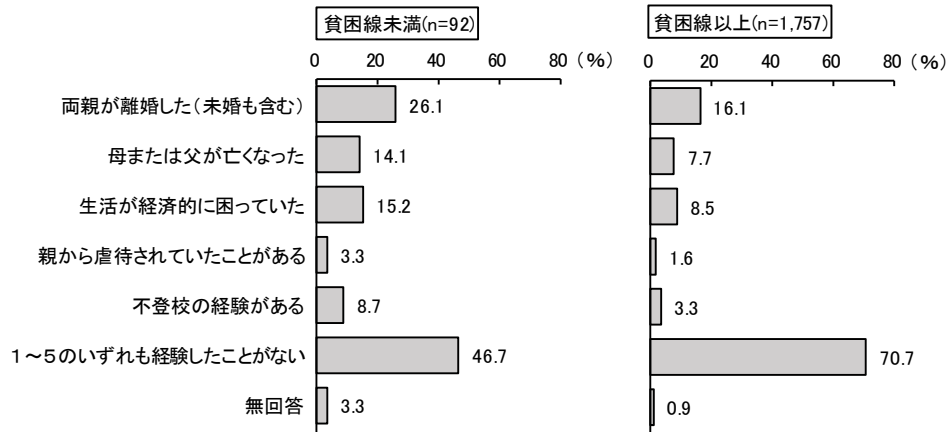
【母親の最終学歴／貧困線別】



『貧困線以上』に比べ、『貧困線未満』の父親では「高等学校卒業」が 11.4 ポイント、「大学卒業」が 10.5 ポイント少なくなっています。

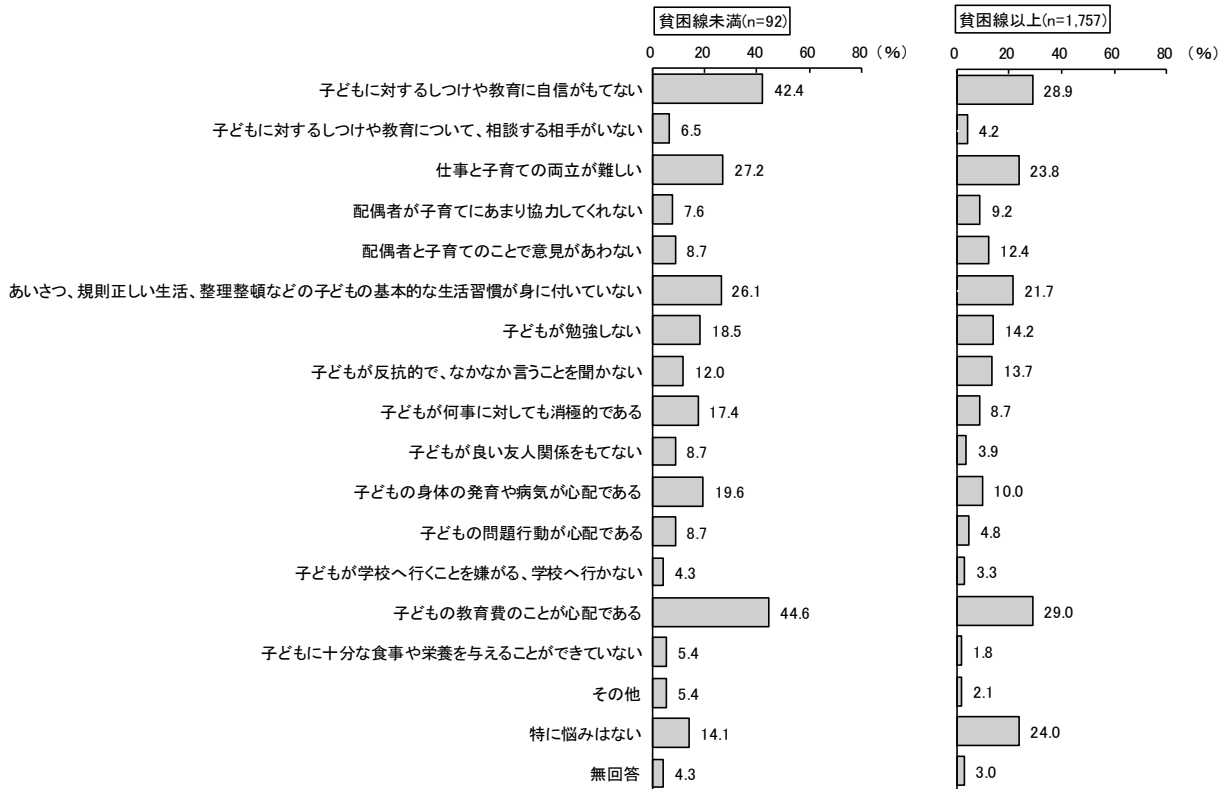
『貧困線以上』に比べ、『貧困線未満』の母親では「大学卒業」が 11.9 ポイント少なくなっています。

④両親の成人する前の家庭での経験



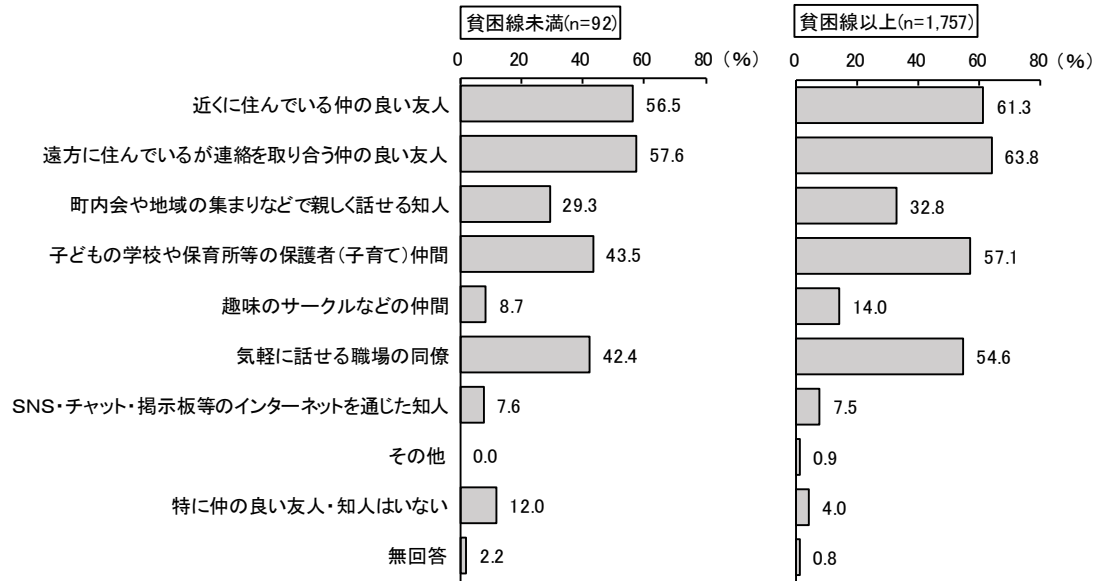
『貧困線未満』では「1～5のいずれも経験したことがない」に次いで「両親が離婚した(未婚も含む)」が26.1%と多く、『貧困線以上』に比べ、両親の離婚や経済的な困窮などを経験した割合が高くなっています。

⑤悩んでいること



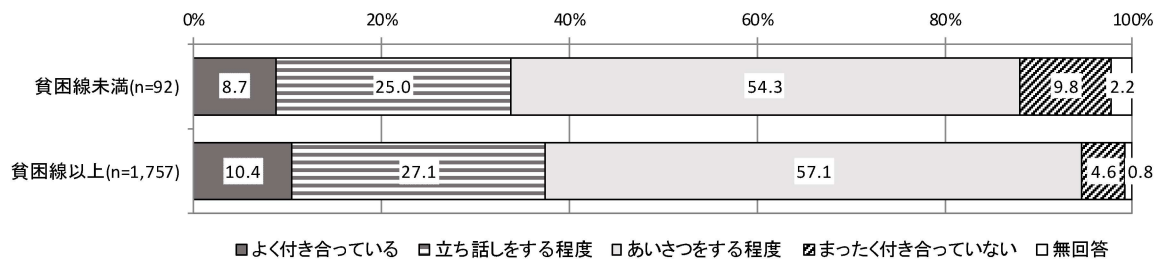
『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「子どもの教育費のことが心配である」が最も多くなっていますが、『貧困線以上』では29.0%であるのに対し、『貧困線未満』では44.6%となっています。『貧困線未満』では「子どもに対するしつけや教育に自信がない」も42.4%と多くなっています。

⑥友人・知人



『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「遠方に住んでいるが連絡を取り合う仲の良い友人」が最も多くなっています。『貧困線未満』と『貧困線以上』を比べると、各項目の傾向はそれほど変わりありません。

⑦近所付き合いの程度

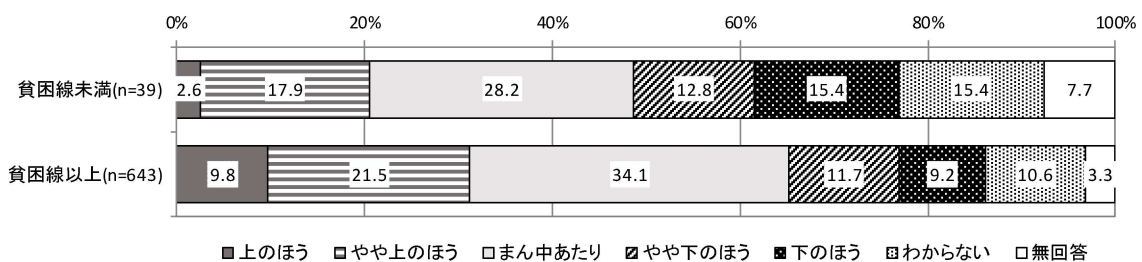


『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「あいさつをする程度」が最も多くなっています。『貧困線未満』と『貧困線以上』を比べると、近所づきあいの傾向にほとんど差はありません。

4. 子どもの状況

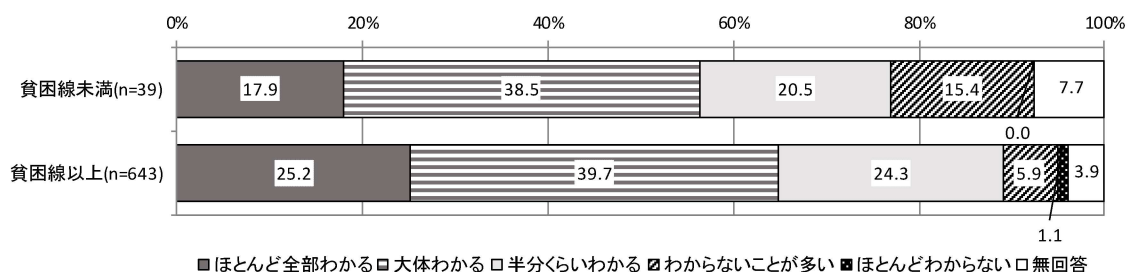
- 学校の成績は、『貧困線未満』では『貧困線以上』に比べ、低い傾向にある。
- 授業の理解度は、『貧困線未満』では『貧困線以上』に比べ、低い傾向にある。
- 将来の進学希望は、大学希望が保護者、子どもともに最も多いが、『貧困線以上』では保護者6割、子ども4割であるのに対し、『貧困線未満』ではその割合が15~25ポイントほど低い。
- 健康状態について、『貧困線未満』では「良い」が4割と、『貧困線以上』に比べ10ポイント程度低い。
- 虫歯の有無については、『貧困線未満』では《ない》が約4割と、『貧困線以上』に比べ14.8ポイント低い。
- 自分自身についての「不安に感じることはない」の設問において、《あてはまらない》と回答した人の割合は、『貧困線未満』では5割以上。
- 悩みごとの相談先は、『貧困線未満』では「親」、「学校のともだち」、「兄弟・姉妹」、「担任の先生」など、身近な大人や家族、友人に相談する割合が高い。

①学校の成績



学校の成績については、学年の中で「上のほう」と「やや上のほう」を合わせた《上のほう》は、『貧困線未満』では20.5%、『貧困線以上』31.3%となっています。「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた《下のほう》は、『貧困線未満』では28.2%、『貧困線以上』では20.9%となっています。

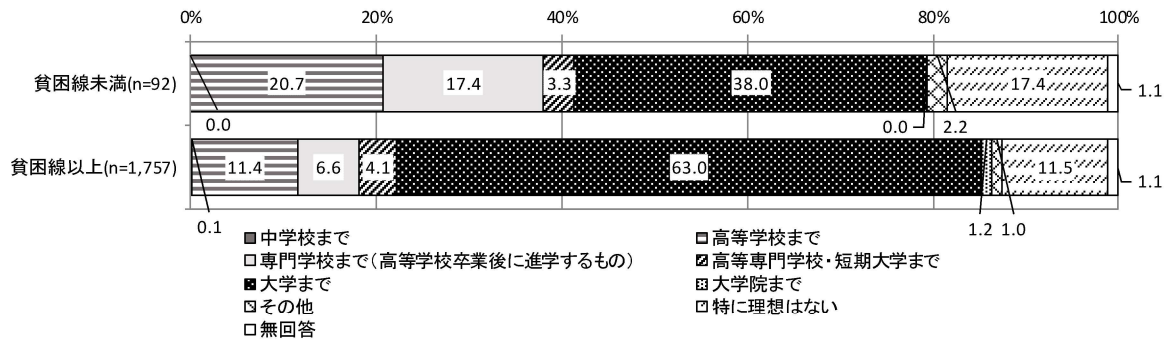
②授業の理解度



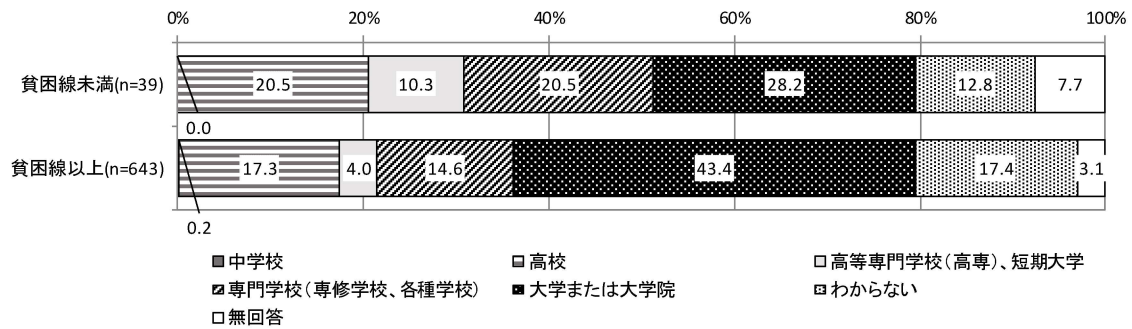
授業の理解度については、「ほとんど全部わかる」と「大体わかる」を合わせた《わかる》は『貧困線未満』では56.4%、『貧困線以上』では64.9%となっています。「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた《わからない》は『貧困線未満』では15.4%、『貧困線以上』では7.0%となっています。

③将来の進学希望

【(保護者) どの段階の学校まで進んでほしいか】

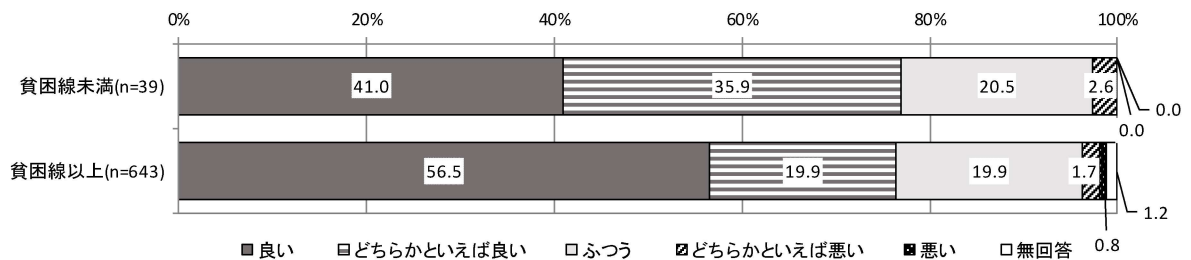


【(子ども) 将来どの学校まで進学したいか】



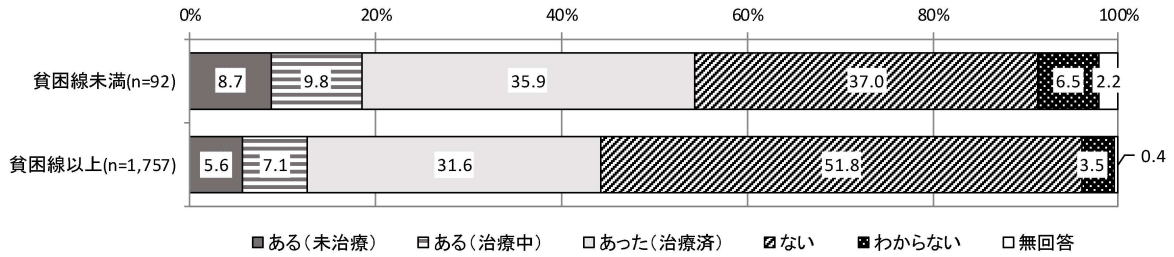
保護者の『貧困線未満』では『貧困線以上』に比べて「大学まで」が 25.0 ポイント少なく、子どもの『貧困線未満』でも「大学または大学院」が『貧困線以上』に比べて 15.2 ポイント少なくなっています。

④健康状態について



健康状態について、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた《良い》は『貧困線未満』で 76.9%、『貧困線以上』では 76.4% とほぼ変わりませんが、『貧困線以上』に比べ、『貧困線未満』では「良い」が 15.5 ポイント少なくなっています。

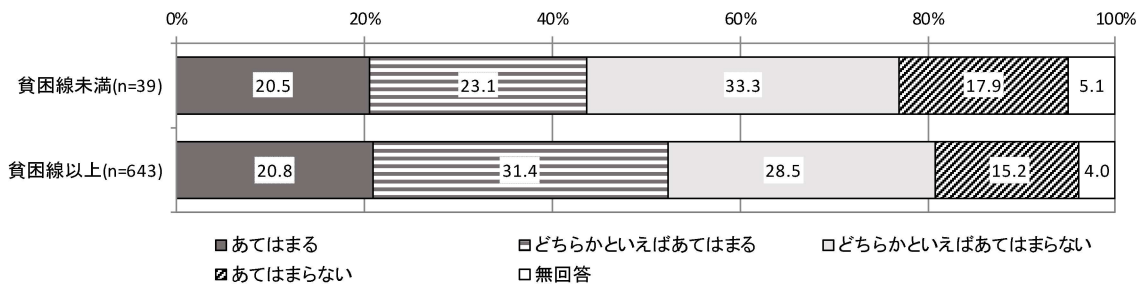
⑤虫歯の有無



虫歯の有無については、『貧困線未満』では「ない」が37.0%と、『貧困線以上』に比べ14.8ポイント低くなっています。

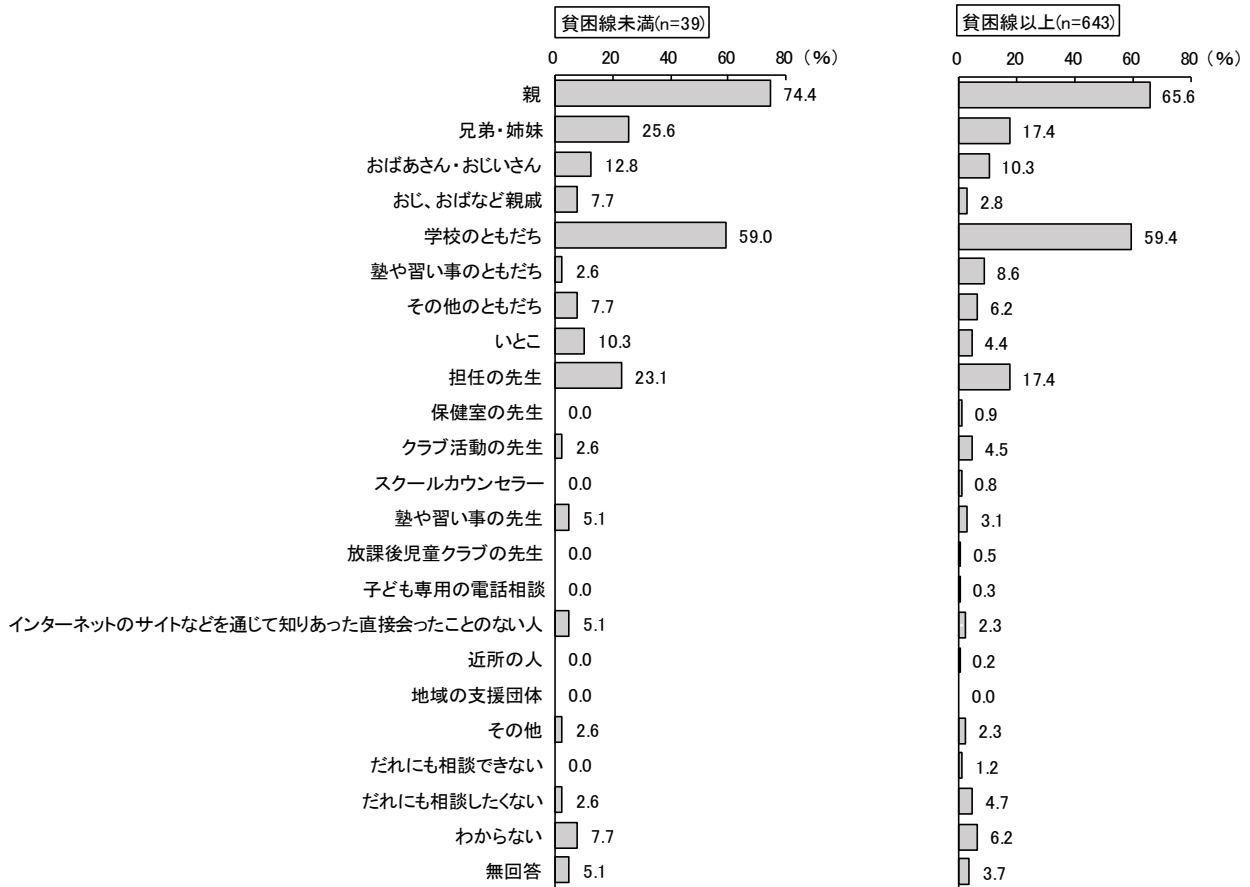
⑥自分自身について

【不安に感じることはない】



不安に感じることはないかについては、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた《あてはまる》は、『貧困線未満』では43.6%、『貧困線以上』では52.2%となっています。「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた《あてはまらない》は、『貧困線未満』では51.2%、『貧困線以上』では43.7%となっています。

⑦悩みの相談先

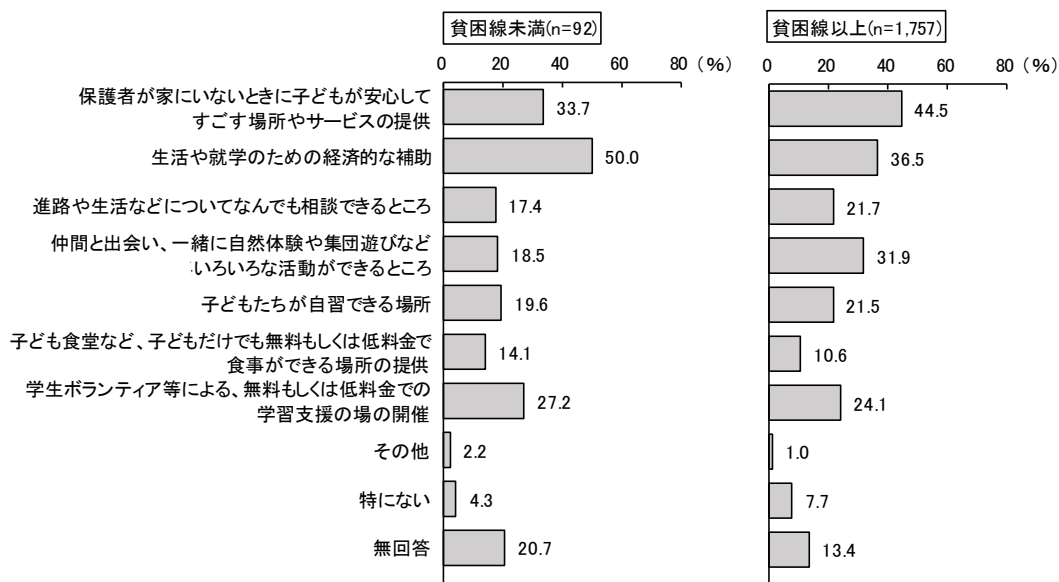


『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「親」が最も多く、それぞれ74.4%、65.6%、次いで「学校のともだち」59.0%、59.4%となっています。『貧困線以上』に比べ、『貧困線未満』では「親」、「兄弟・姉妹」、「担任の先生」など、身近な大人や家族、友人に相談する割合が高くなっています。

5. 要望する支援

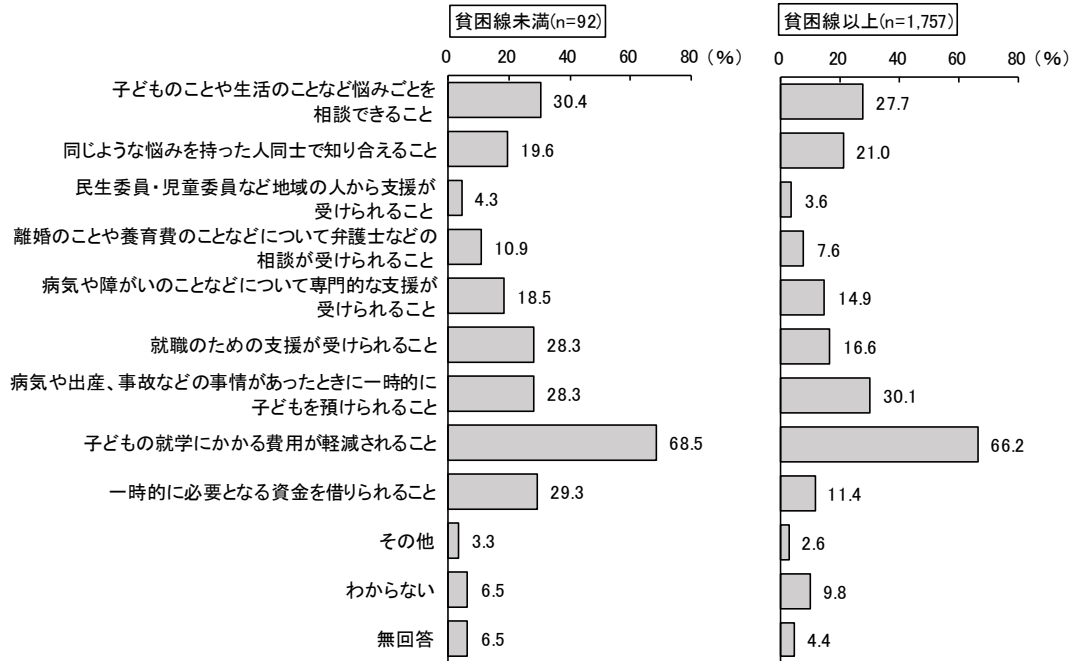
- 現在または将来的に利用したい支援は、『貧困線未満』では「生活や就学のための経済的な補助」が5割。
- 現在必要としていること、重要だと思う支援は、『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が最も多く6割以上。
- 必要な支援を受けられるようにするために重要なことは、『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が最も多く5割以上。

①現在または将来的に利用したい支援



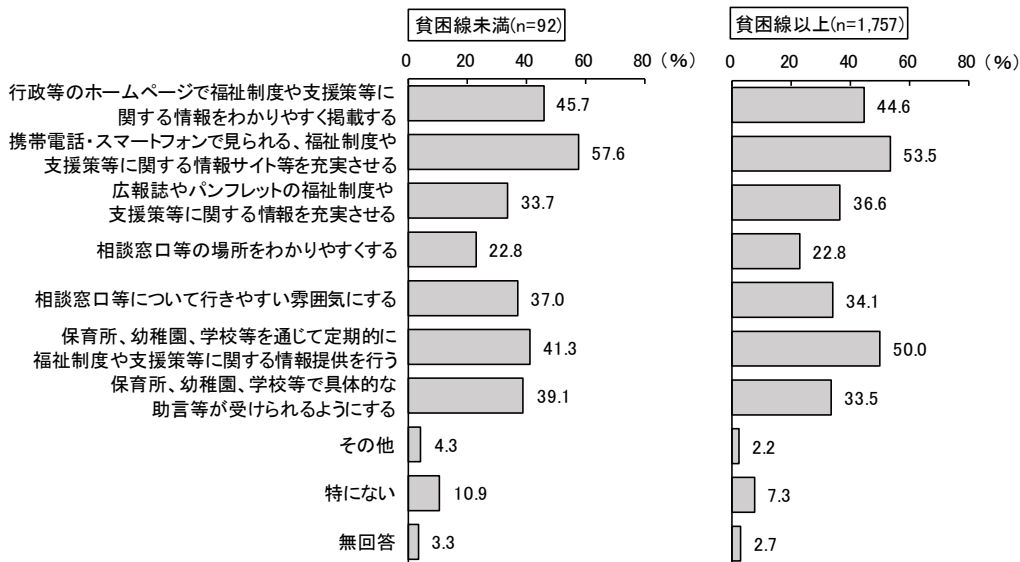
『貧困線未満』では「生活や就学のための経済的な補助」が50.0%、『貧困線以上』では「保護者が家にいないときに子どもが安心して過ごす場所やサービスの提供」が44.5%と最も多くなっています。

②現在必要としていること、重要だと思う支援



『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が最も多く、それぞれ 68.5%、66.2%となっています。

③必要な支援を受けられるようにするために重要なこと



『貧困線未満』、『貧困線以上』ともに「携帯電話・スマートフォンで見られる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が最も多く、それぞれ 57.6%、53.5%となっています。

Ⅲ. 自由意見

Ⅲ 自由意見

アンケートの感想や悩みごと、市に対する要望など、保護者 459 人から回答がありました。

記入された内容の主旨から分類したところ、「金銭面に関すること」94 件、「制度に関すること」155 件、「子育て（支援）に関すること」60 件、「子育て環境、生活環境について」161 件、「医療や保健に関すること」112 件、「窓口・行政に関すること」59 件、「アンケートに関すること」119 件、「学校生活・先生について」24 件、「その他」14 件となりました（重複あり）。

また、同じく、アンケートの感想や悩みごと、大人に言いたいこと等について、子ども 78 人から回答がありました。記入された内容の主旨から分類したところ、「学校生活に関すること」17 件、「家庭生活に関すること」4 件、「悩みについて」8 件、「友人や自分自身のことについて」18 件、「地域や社会に関すること」17 件、「アンケートに関すること」29 件となりました（重複あり）。

以下、抜粋意見を掲載します。

1. 保護者の自由意見

◆金銭面に関すること

- ・震災で原発被害にあい、家賃補助も打ち切られ、引っ越し資金もなく、毎日の生活が苦しい。
- ・私立高校の学費の高さに困っている。
- ・2 人目の子どもを望んでいるが、現状の生活水準では経済的に苦しくなりそうで踏み切れない。

◆制度に関すること

- ・児童扶養手当での年収限度額をあげてほしい。
- ・市営住宅について、所得額によって家賃額が変わることに困る。
- ・所得が増える事で、母子家庭の制度も停止され困る。
- ・母子父子家庭で利用できる制度が色々ある事を知らなかった。
- ・母子家庭だが、定年を迎え再雇用で働いている祖父と同居しているので母子家庭支援を受けられないので、改善を希望する。

◆子育て（支援）に関すること

- ・発達障害の子どもたちに対する学校の支援をもっと充実してほしい。
- ・親が、共働きで、どうしても仕事を休めない時、熱を出す時、病気をしている子どもを預かってもらえる場所を希望する。
- ・ワンオペ育児で悩んでいるため、土日などに同じような悩みを持つ人達が集まって話しが出来るような場所を希望する。

◆子育て環境、生活環境について

- ・公園以外にも、子どもたちが安心して遊べる、活動できる場所を増やして欲しい。
- ・市で、幼稚園児、小学生を対象としたイベント（学び、遊び）を開催し、子ども同士が触れ合う場を設けてほしい。
- ・小学校の各教室にエアコンを取りつけて欲しい。
- ・子ども達の通学路の街灯の少なさが気になる。
- ・仕事のため、子どもを遅くまで預けることができる場所を希望する。
- ・学童保育の充実を図ってもらいたい。（学童中の習い事の様なものや、長期休みの合宿など民間学童の様に充実してほしい。）

◆医療や保健に関すること

- ・医療費助成の対象の範囲を広げてほしい。
- ・インフルエンザ予防接種の費用を一部負担してほしい。
- ・医療費助成について、対象年齢の引き上げより所得制限を緩和する方が有効と思う。

◆窓口・行政に関すること

- ・窓口相談について、これからも相談しやすい雰囲気であってほしい。
- ・もう少し子どもの教育（学習面）に力を入れてほしい。
- ・市がどのような子育て支援施策を打出しているか説明資料が不足している。行政としてどのような子育て事業を推進していきたいのかビジョンが見えない。
- ・子育て支援に限らず、HPの内容が古いままの部分などがあるので毎年点検して更新してほしい。

◆アンケートに関すること

- ・収入について、詳しく記入するには抵抗があった。
- ・アンケートを通して毎日の生活を振り返るきっかけになった。
- ・調査結果が公開されるのかどうか、公開される場合どのような形となるか、アンケートの趣旨に記載して欲しかった。
- ・このアンケート結果が、どのように施策に反映されるのか知りたい。

◆学校生活・先生について

- ・不登校について、もっと取り組んでほしい。
- ・もう少しボリュームのある給食を提供してほしい。
- ・勉強も大事だが、人を傷つけない発言、伝え方を子どもに学ばせる必要がある。

2. 子どもの自由意見

◆学校生活に関すること

- ・小学校すべてにエアコンをつけてほしい。
- ・トイレを改修してほしい。

◆家庭生活に関すること

- ・何かしたくてもお金がかかるので、我慢している。
- ・私は、父、母、兄、姉みんな大好きです。この家に生まれてきてよかったと思います。

◆悩みについて

- ・クラスにあまり友達がいない。
- ・子どもの受験の志望校を親が勝手に決めないで、子どもにも聞いてほしい。

◆友人や自分自身のこと

- ・自分たちでできることもたくさんあるから、もっと自由にさせてほしい。
- ・改めて、自分が恵まれた環境にいることを実感した。

◆地域や社会に関すること

- ・税金の無駄遣いはなくしてください。
- ・中高生が楽しめる施設を作ってほしい。

◆アンケートについて

- ・答えづらい質問が多かった気がする。
- ・家族や自分の将来について考えることのできるものばかりで、自分を見直す機会になった。